【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第１学年　国語科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・２学期始め時点でひらがながほとんど定着し，簡単な音読ができる児童が多い中，一字一字拾い読みの段階の児童や半数ほどしか定着していない児童がおり，教科書等の文章を自力で読み取ることが難しい段階であること。

・幼児期からゲームの世界や図鑑の世界にはまっていたと考えられる児童の中には，文を読み，理解することはできるのに，物語のファンタジーの世界を楽しめなかったり，登場人物の気持ちを想像することが難しかったりする傾向が見られること。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・令和２年度未就学のため，記載なし。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・ひらがなが未定着の児童には，カルタ遊びやタブレットを活用した文字ゲーム等を通して，ひらがな理解につながるような個別指導を行っている。

・簡単な絵本の読み聞かせを適宜行い，物語の世界を楽しんだり，友達と一緒に登場人物の描写から情景を想像したりする機会を多く設けている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①文字の定着を目指した個別指導と，授業での声掛けを連携させる。

②物語の世界を楽しめるようにするために，読み聞かせや読書指導と，物語学習での劇化や動作化などに楽しんで取り組めるようにする工夫をする。

＜検証方法＞

❶２学期末までに，教科書の文や問題文などを一定の速度で正しく読めるようになったか。

❷１０月～１１月にかけての単元「くじらぐも」の学習において，くじらぐもに乗って町を飛んだときの気持ちを想像して表現することができるようになったか。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第１学年　算数科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・言葉や文字の定着が曖昧な児童の中には，数と言葉のマッチングが難しく，「１３」が「じゅうさん」なのか「さんじゅう」なのかがなかなか分からないなどの混乱が見られること。

・全体的に，数を２とびで数えたり，５とびで数えたりするなどの，抽象的な数操作に苦手感が見られること。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・令和２年度未就学のため，記載なし。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・教室に数の表を常掲し，学習の中で指し示しながら繰り返し数を唱えさせている。

・抽象と具体を行き来しながらの学習を繰り返し，具体物での理解を抽象的な表現とマッチングできるようにし，抽象的な思考や表現に慣れさせている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①数の概念や名称，表記を定着させるために，掲示と声掛けの工夫をする。

②抽象的な数の表現を理解できるようにするために，児童の活動の工夫をする。

＜検証方法＞

❶２学期末までに，１００までの２位数を正しく読んだり書いたりできるようになったか。

❷２学期末までに，既習の数範囲において，数直線での数の順列の表記と大小比較が正しくできるようになったか

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第１学年　生活科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・常に保護者や島の大人がそばにいることが多く，子供だけの関わりや，自分たちだけで何かに取り組んだり挑戦したりする経験が少ない児童が多いこと。

・子供たちがやってみたいと思う活動や体験を実際にやらせることが難しいものがあること。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・令和２年度未就学のため，記載なし。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・生活科の授業の中でも，子供同士で考えたり解決したり試行錯誤したりする活動を重視して，友達に目を向けたり，自分自身を客観的に見つめられるようにしたりすることで，自立を支援していくようにしている。

・母島の環境では難しい活動（哺乳類を飼う，秋や冬で遊ぶ，など）や，児童数が少ないことにより成果が上がりにくい活動（多様な意見を比較する，集団遊びをする，など）では，単元，教材，取り組み方などを工夫し，母島の環境下でも，少人数でもねらいを達成できるように工夫している。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①学校探検や生き物を飼う計画を子供たち主体で話し合わせると共に，学年だより等を通して，保護者へも趣旨を説明し，協力を得る。

②母島にいない生き物については，哺乳類の代わりに魚類を飼う，どんぐりの代わりにギンネムの種子を使うなどをして工夫する。

＜検証方法＞

❶２学期の生き物を育てる活動で，自分たちで考え協力しながら，世話を続けることができるようになったか。

❷２学期の活動を通して，生き物に愛情をもつことができたか，木の実や種子で工夫して遊ぶことができたか。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第１学年　音楽科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度の１学期末に実施した授業評価アンケートの音楽科では，「授業は分かりやすいか」という項目に関して，７名中６名が「はい」と答えているが，「学習の進む速さ」については，７名中２名が「遅い」と感じている。このことから，繰り返す学習だけでなく，児童が興味・関心をもてる授業展開を考えていくことで，改善が図られるとよい。「音楽科で質問すると，分かりやすく答えてくれるか」という項目に関しては全員が「はい」と答えていることから，「わかる」から「できる」につながり，理解度は上がっていると考えられる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・令和２年度は未就学であるため，なし。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・動画を撮影して歌唱指導をすることで，自身の歌唱の課題を児童が客観的に捉えられるようにする。

・器楽の演奏では，板書で示したリズムを共有することで，理解を図っていく。

・鍵盤ハーモニカの演奏では，視覚的に理解できるよう鍵盤に音階を貼り付けることで，運指が苦手な児童にも演奏を定着させることができるようにする。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①個別指導での，児童の疑問点の解消。	❶年２回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第１学年　図画工作科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・抽象的な表現への苦手意識が強く，描いたり作ったりする対象を具体的に指示しないと制作が進まなかったり，きちんとした形にならないと納得できず，定規を使って線を引きたがったり，造形遊びを楽しめなかったりする児童が見られること。

・対象の全体を捉え，表現することが難しく，手足のつながりがおかしかったり衣服が透けていたりする段階の児童や，描画技術が稚拙かつ雑で形の中を塗りつぶすことが難しい児童がいて，言葉の説明や手本を見せるなどの指導ではなかなか本人の納得につながらない実態であること。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・令和２年度未就学のため，記載なし。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・紙を破いて偶然できた形から想像したり，ローラーで自由に引いた線から想像を広げたりする，自由な表現や造形遊びを多く取り入れ，自由な表現を称賛して自信をもたせる機会を多く設けている。

・人物像を描くときは全身が見える鏡で自分の姿を映し，部分のつながりや衣服の見え方を確認して描かせる活動をしている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①自由な表現への自信を高められるような活動や評価の工夫をする。 ②人物や動物などを描く時の，全体と部分が捉えられるような指導方法の工夫をする。	❶２学期末までには，自分の表現に自信をもち，自由な表現を楽しめるようになったか。 ❷１０月末に学芸会の様子を描くときに，人物を正しく捉え，表現することができたか。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第１学年　体育科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・ゲーム遊びなどで，複数のチームやグループを作ることが難しく，多様な活動や作戦，考えが出にくいこと。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・令和２年度未就学のため，記載なし。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・２年生と合同の体育としてできるだけ人数を増やしている。

・グループでの運動の機会をゲーム遊びだけでなく，器械運動系の遊びや，体づくり系の遊びでも取り入れ，チームでの取り組みや，協働学習の機会をできるだけ増やしている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①様々な単元，種目でチーム学習や協働学習を取り入れ，多様な考え方，取り組み方に触れられるようにしている。

＜検証方法＞

❶３学期のボール蹴り遊びでは，１学年児童からも積極的に作戦を出し，話し合いながら取り組めるようになったか。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】